

筑波大学構内(第1～3エリア)の点字ブロックの設置状況調査

水成 真由美 (地球科学専攻)

1. 目的

筑波大学構内(第1～3エリア)を対象に、誤って設置されている点字ブロックの位置とその設置状況について調査することで、筑波大学構内の点字ブロックの設置における問題点・原因を考察する。

2. 解析手法

誤った点字ブロックの設置状況として以下のような6種類に分類した。分類した誤った点字ブロックの位置をGPSで記録し、以下の凡例に沿って誤った点字ブロックの分布図をGISで作成・考察を行った。

誤った点字ブロックの設置法	凡例
点字ブロックの形状・大きさ・色の変化	不均質な材質
誘導ブロックの不連続(写真1)	境目
屈曲部における警告ブロックなし	屈曲部
点字ブロックの破損	破損
点字ブロックの中断	行き止まり
点字ブロック付近の障害物	障害物

3. 結果・考察

筑波大学構内(第1～3エリア)における誤った点字ブロックの分布を図1に示す。図1から、誤った点字ブロックの設置が「誘導ブロックの不連続」と「屈曲部における警告ブロック」に分類されるものは、ペDESTリアンデッキに集中していることが分かった。この理由として、ペDESTリアンデッキは特に通学時間中に多くの自転車が通ることが挙げられる。警告ブロックを多く設置すると、自転車の走行がしにくくなり、警告ブロックの設置が控えられていることが考えられる。

また、「点字ブロックの破損」がペDESTリアンデッキの北に集中していることが特徴的である。この周辺には主要な建物があまりないため、視覚障害者の利用も少ないと考えられ、破損後の修理が後回し

になっている可能性が指摘される。

一方で、「点字ブロック付近の障害物」が西側に集中している傾向が見られた。障害物は自転車・泥除けマット・花壇とどれも点字ブロックの歩行に支障をきたす物であった。障害物のあった場所はいずれも点字ブロック周辺の通路が狭く、このため障害物が点字ブロックまではみ出してしまったと考えられる。

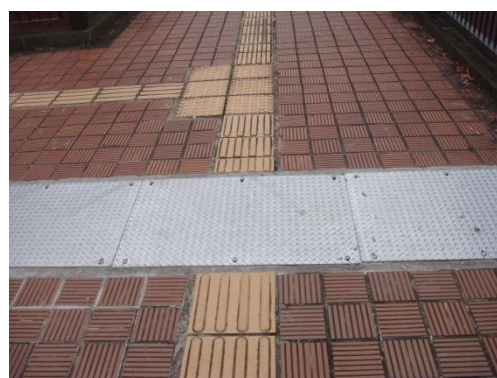


写真1: 誤った点字ブロックの設置例

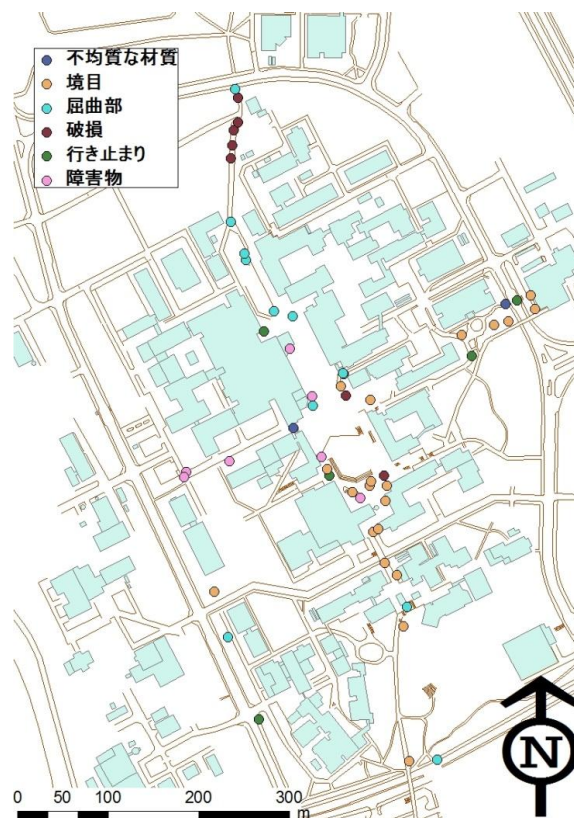


図1: 筑波大学構内(第1～3エリア)における誤った点字ブロックの分布